

九州工業大学とラックが AI を活用したサイバー防御における共同研究を開始

-サイバーセキュリティ分野における次世代データ分析研究を推進-

国立大学法人九州工業大学（以下 九州工業大学）と株式会社ラック（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：西本 逸郎、以下 ラック）は、日々複雑化しているサイバー攻撃からの被害を受ける前に攻撃を防御する AI 活用技術（次世代データ分析手法）の確立を目指し、2019年9月1日より共同研究を行うことに合意しました。

社会のデジタル化が浸透し活用範囲が広がる一方で、犯罪者がこれを悪用し、世界中の IoT 機器やコンピュータを乗っ取り攻撃するなど、最新テクノロジーを駆使しながら様々な手法が日々生み出され、サイバー攻撃の複雑化は私たちの想像を超え大きな脅威となっています。多くの企業にとって多様化・巧妙化していくサイバー攻撃は防ぐことが難しいと言われて、現状では被害が発生した後の対応で被害を最小化する対策が主流となっています。しかし、今後益々高度化するデジタル社会において、このような事後対応を主流としたセキュリティ対策だけで攻撃者に立ち向かい続けることは現実的ではありません。

そこで、サイバーセキュリティのパイオニア企業であるラックと、AIに関する研究で高い知見を持つ九州工業大学は、潜伏した脅威と兆候を検知し未然に防御するための AI を活用した次世代データ分析に関し共同研究を進めることといたしました。本研究の狙いは次の通りです。

共同研究の狙い

・ AI を活用した次世代データ分析手法の実現

ラックがもつ 20 年以上のセキュリティサービスに関わる知見と膨大なデータ、世界中の脅威情報収集基盤から集められる鮮度の高い有益なデータを AI に学習させ、新たな次世代データ分析手法の実現に取り組みます。これにより脅威と兆候を見つけ出し、サイバー攻撃による被害の極小化を目指します。

・ データとアルゴリズムのマッチング

九州工業大学の中村研究室（大学院情報工学研究院 中村貞吾 准教授）は、知的思考に関する長年の研究を通じて AI に関する深い知見を有しており、ラックが保有する膨大なデータと融合することで、サイバーセキュリティ分野だけでなく膨大なデータに対する新たなデータ処理手法とアルゴリズムの確立を目指すとともに、その他の分野への展開にも挑戦します。

【株式会社ラックについて】 (<http://www.lac.co.jp/>)

ラックは、1986年にシステム開発事業で創業、多くの実績を誇る「金融系の基盤システム開発」をはじめ、社会の基盤システムの開発を行っています。1995年にはいち早く情報セキュリティ事業を開始し、現在ではサイバーセキュリティ分野のリーディングカンパニーとして、官公庁・企業・団体等のお客様に業界屈指のセキュリティ技術を駆使した、先端のITトータルソリューションサービスを提供しています。

【国立大学法人九州工業大学について】 (<https://www.kyutech.ac.jp/>)

九州工業大学は、1909年（明治42年）の私立明治専門学校の設定に始まり、開学以来、「技術に堪能なる士君子」の養成を基本理念として、世界を先導する高度技術者を排出するとともに、新技術を創出する研究開発を通して百年余にわたって我が国及び世界の産業発展に貢献してきました。福岡県内の3キャンパスで約5650名の学生が学んでおり、昨年度は年間260件を超える民間企業等との共同研究を行うなど、産学連携にも力を注いでいます。

*ラック、LACは株式会社ラックの国内およびその他の国における登録商標または商標です。

*その他、記載されている会社名・団体名、製品名などは、各社の登録商標または商標です。

【お問い合わせ先】

- ・国立大学法人九州工業大学 総務課広報企画係
電話：093-884-3007 Mail：sou-kouhou@jimu.kyutech.ac.jp
- ・株式会社ラック コーポレート・コミュニケーション室
電話：03-6757-0107（広報部門） Mail：pr@lac.co.jp

【研究内容に関するお問い合わせ】

国立大学法人九州工業大学 大学院情報工学研究院
知能情報工学研究系 准教授 中村 貞吾
電話：0948-29-7623 Mail：teigo@ai.kyutech.ac.jp